

クローズアップ現代+ 16歳の少女が 世界に訴える温暖化

放送日：2019年9月26日 放送時間：30分

この番組の良さ

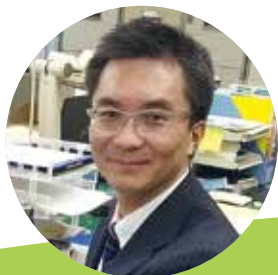


● 持続可能な世界を次の世代に残すには

2019年にニューヨークで開かれた「温暖化対策サミット」で、スウェーデンの活動家グreta・トゥーンベリさん(16)がスピーチをしました。気候変動が緊急事態にあると訴えるグretaさんは、毎週金曜日に学校を休んでストライキを続け、大人たちに本気の対策を要求しました。この活動は若者たちを動かし、世界中に賛同の波が広がりました。番組を視聴することで、「持続可能な世界」を次の世代に残していくための課題について考えることができます。

● 地球の現状と動き出した産業界

科学者によると最新の研究では、2030年までで人類の未来が決まると指摘されています。IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の報告によると、地球の平均気温は、早ければ10年後には後戻りできなくなってしまうと言います。番組では、最新科学が警告する温暖化の最前線の取材や変革を求められる産業界の取組などが紹介されており、温暖化をより身近な問題として感じ、自分たちにできることが何なのかを考えることができます。



執筆者
沼津市教育委員会
指導主事 **加納 真**



対象校種 小学校高学年 中学校 高校

対象教科 総合 理科 社会

番組活用のポイント

● 問題意識を醸成する

地球温暖化の原因や私たちの生活への影響について、様々な研究や議論が交わされています。そんな中、温暖化に関心を持ち知識や技能を身に付け、日々の生活の中で行動に移そうとする子供たちの姿も見られるようになりました。しかし、地球規模の変化に対してできることや何かをしたことで世の中が変化しているという実感は、あまりないのが現実かも知れません。

グretaさんの訴えを機に世界中に広がった若者たちの動きや、最新科学が突きつける新たな事実、産業界の取組などを知るだけに終わらず、温暖化を自分事としてとらえ、自分たちにどのようなことができるのかを考えていくことで、問題意識を丁寧に醸成しながら番組を活用していくことが大切です。

● 未来志向で考える

人間の経済活動や便利な生活などを優先した結果、より温暖化が進み、その進み方が緊急事態にあると言われていても関わらず、政治や産業界の動きは鈍いと言わざるを得ません。大人たちに怒りを感じ、行動を起こす若者に共感することは大切ですが、現状を責め憂いてばかりでは、問題は解決しません。持続可能な世界を形成するという立場から、自分たちに何ができるのか、どのように生きていったらよいのか考えていくようにするとよいでしょう。そのためには、総合的な学習の時間を中心に、SDGsについて扱い、理科や社会などの学習と関連付けながらカリキュラム・マネジメントに取り組み、深い学びの実現を試みてみるとよいでしょう。

番組から自分たちの未来に繋がる部分をクローズアップし、科学者の最新研究や産業界、政府、国際機関などができるところを分類しながら整理し、具体的に個人ができることをディスカッションしていく展開をおすすめします。

持続可能な世界を 次の世代に残ためにできることは？

対象校種 中学校 対象教科 総合

【授業時間 50分】 まるごと視聴

児童生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
<div style="text-align: center;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化を防ぐためにしていることがあるか聞く。 ・自分がしていることが、地球が良くなることに繋がっているという実感があるか聞い、その実感がなくとも何かできることはないのだろうかという問題意識を醸成に繋げる。 ・グレタさんの活動や温暖化に関する最新研究を扱った番組があることを紹介する。 ・1人1台端末を活用し、共感したことや重要だと思ったことを箇条書きでメモしながら視聴するように伝える。 ・1人1台端末を活用し、共同編集により、科学者の研究や産業界の動き、若者の行動について共有し、類型化しながら意見交換を行うことで、自分たちにできることを議論していく。 ・思考が番組内だけにとどまらないよう、他教科での学びを想起するように呼びかける。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化について自分事としてとらえ、未来のためにできることを議論し考えることができたか。

コラム 『BS1スペシャル “脱プラスチック”への挑戦～持続可能な地球をめざして～』

プラスチックごみによる環境汚染が問題となり、世界中でレジ袋の禁止など脱プラスチックの動きが高まっています。太平洋ごみベルトでプラスチックごみ回収に挑むオランダの若者たち、循環型経済をめざすビジネスの最前線、独自のリサイクル技術売り込む日本のベンチャー取材し、気候変動の危機に警鐘を鳴らすトーマス・フリードマン、ヨハン・ロックストロームの話から、持続可能な未来を考えます。